

令和の万葉大茶会・太宰府大会 水素エネルギーの活用について



このたび大宰府政庁にて、「令和の都 だざいふ万葉体験」記念式典 ならびに、新元号「令和」の典拠となった万葉集「梅花の宴」の再現を実施致します。

梅の花をこよなく愛した歌人・大伴旅人、旅人の子で万葉集を編纂し、自然の美しさに深い想いを込めた大伴家持、その精神に基づき、

「人と環境にやさしいまほろばの里・太宰府」

として、電源には「水素エネルギー」を積極的に活用し、悠久の歴史と自然環境に配慮した大会運営を実施致します。

<令和の都だざいふ万葉大茶会実行委員会>

(※当日、大宰府政庁にお越しの訪日外国人旅行者の方々には、水素エネルギーを使ったキッチンカーで作った、福島県の食材を利用したブイヤベースを先着80名様にご提供いたします。)

九州大学では、伊都キャンパスを「水素実証キャンパス」と位置づけ、2003年より「水素社会」を具現化する試みを行っています。キャンパス内に、再生可能エネルギー由来の電力で水素を製造する水素ステーションや水素社会ショールームを設けて、水素エネルギー技術を可視化し、環境教育活動や普及啓発活動、情報発信、社会受容性の向上に努めてきました。約20年間の見学者数は約67,000人に達しています。この脱炭素環境教育の取り組みが評価され、環境省の「令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰・環境教育活動部門」を受賞しました。

また、九州地域のグリーンイノベーションハブとして、福岡県や福岡市などと連携し、地域成長戦略や脱炭素社会モデル構築などの政策の提言、イノベーションを牽引する高度人材の育成や、2015年には全国に先駆けて、国土交通省・福岡市とともに、下水処理場の汚泥から水素を作る水素ステーションの実証を開始、世界で初めて大学公用車に燃料電池自動車（FCV）を導入し、2023年には伊都キャンパスとJR駅間で燃料電池（FC）バスの走行実証を開始しています。FCVやFCバスには九大水素ステーションで製造した水素を使用しています。水素の利活用による脱炭素化のためには、利用時のみでなく製造時や貯蔵・輸送時なども含め、一貫した取り組みが必要です。今後も、九州大学の水素エネルギー分野の強みを活かして、脱炭素社会の実現に貢献して参ります。



九州大学 副学長水素エネルギー国際研究センター長
佐々木一成

自動車業界では、2050年カーボンニュートラル実現に向けて様々な取組を加速しています。具体的には、電気自動車、プラグインハイブリッド車、燃料電池車などクリーンエネルギー自動車を普及させていくとともに、合成燃料の早期開発に取り組むなど、様々な手法でカーボンニュートラルを実現に取り組んでいるところです。中でも、水素エネルギーを活用する燃料電池車や水素自動車は、日本の技術力が高い大変有望な分野です。EV一辺倒ではなく、日本の強みを生かした多様な世界戦略が求められているものと考えます。

我々の取組を国も後押ししており、クリーンエネルギー自動車の導入を加速するためのユーザー向けの補助金（CEV補助金）や、EV用の充電設備・燃料電池車用の水素充電設備の整備に必要な補助金などに、令和5年度補正予算において約1,600億円が措置されたところです。

国内で燃料電池車等の普及を進めていく上では、最後は国民であるユーザーに選択していただくかなければなりません。そうした意味で、ユーザーとの最前線にいる我々ディーラー業界の役割が極めて重要だと考えています。水素ステーションの整備を自治体や関係業界と進めるなど、様々な環境整備にも取り組んでまいります。今後とも業界をあげて脱炭素社会の実現に取り組んでまいります。

一般社団法人日本自動車販売協会連合会 副会長 小糸正樹

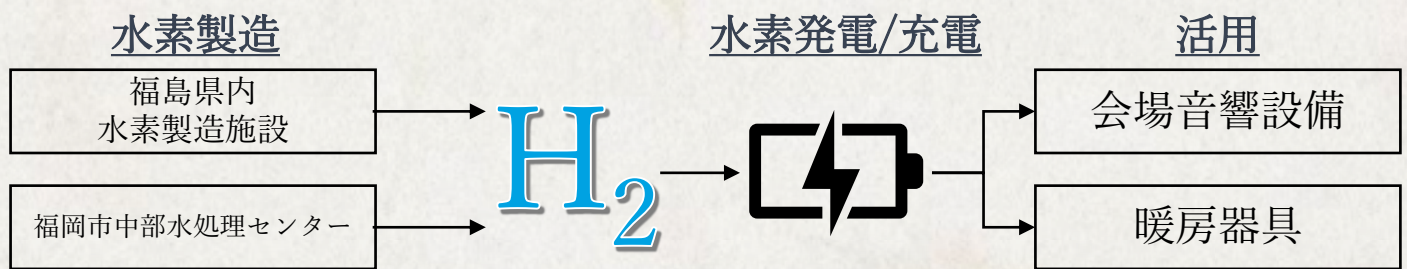


第一実業株式会社

第一実業株式会社は、伝統と革新が融合する令和の万葉大茶会 大宰府大会の趣旨に賛同し協賛しています。

当社の紹介する最先端水素ソリューションによる電源供給は、環境に配慮したエネルギーの未来を象徴しています。この茶会での私たちの展示が、持続可能な社会への実現への第一歩となることを目指しています。

《今回の水素利活用フロー》



株式会社 孫の手



環境省グッドライフアワード
環境大臣賞 優秀賞受賞 (2019年)

孫の手トラベルは、トヨタ自動車と連携して水素燃料電池キッチンカー（FCキッチンカー）を国内初導入、これを活用したアウトドアレストラン事業を展開しています。また、FCキッチンカーによる食の旅「フードキャンプ」や「水素ツーリズム」事業に取り組んでいます。



福島からの水素応援隊

株式会社 エイブル



(株)エイブルは、福島第一原発の廃炉エンジニアリングに尽力する一方、福島復興と未来に向けてFH2R（福島水素エネルギー研究フィールド）のある浪江町、請戸漁港での地産地消クリーンエネルギーインフラ構想に取り組んでいます。



両社は共同で福島県浪江町 請戸漁港の鮮魚、そしてこの度被災された北陸、富山県高岡市の野菜で仕立てたブイヤベースをご提供し、令和の万葉大茶会 太宰府大会を応援します。